

長者屋敷(県史跡)(磐田市寺谷 2218-2) (史跡公園)

東西約 100m、南北約 80m のほぼ長方形に巡る土塁に囲まれた奈良時代の遺跡です。発掘調査で土塁の内側に建物跡が発見されました。

土塁は高さ約 3m で、両側には濠が巡ります。土塁の南西隅は古墳の高まりが利用され、南側中央と北東隅に出入口が造られました。奈良時代の役所の施設と考えられます。

磐田市教育委員会

磐田原台地西縁近くの、標高 87m 付近に位置します。周囲には広大な茶畑地帯が広がっています。この地には古くから土塁が残っており「長者屋敷」という字名があることから、中世の居館跡と考えられていました。周辺には県企業局寺谷浄水場の建物や設備があります。この企業局建設以前の昭和 44 年、遺跡の年代や性格を知るための発掘調査が行われました。その結果、土塁の規模は東西約 100m、南北 80m、底幅 10m、上部幅 3m、残存の高さ 3m で長方形に巡っていて、南側は二重であることがわかりました。土塁の内側には、濠が巡っていました。さらにその内側は平坦となり、7~8 世紀頃の堀立柱建物跡が見つかっています。建物全体の大きさがわかるのは一棟だけですが、その規模は南北 16.5m、東西 5.5m、柱間は約 2m を測る、当時としては大規模な建物です。また、この建物は土塁と平行することから、同時期であると考えられます。調査によって見つかった土器は、古墳時代後期から奈良時代(7 世紀から 8 世紀)にかけてのものでした。したがって、この遺跡が営まれた時代は主に奈良時代で、大型の堀立柱建物跡があることから、地方官衙跡もしくは豪族の居館跡と考えられます。昭和 51 年には、史跡設備に伴う周辺の調査や、長者屋敷遺跡全体の測量が行われました。昭和 54 年に県指定史跡となり、現在は史跡公園となっています。園内にはさまざまな種類の樹木が生い茂っており、四季折々の趣があります。

ハローナビしずおかに

